

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-183516
 (43)Date of publication of application : 28.07.1988

(51)Int.CI. A61K 7/02
 A61K 7/00

(21)Application number : 62-164934 (71)Applicant : SHISEIDO CO LTD
 (22)Date of filing : 01.07.1987 (72)Inventor : NANBA TOMIYUKI
 ISHIWATARI MASAAKI
 IKEDA TOSHIHIDE

(30)Priority
 Priority number : 36120623 Priority date : 02.09.1986 Priority country : JP

(54) MAKEUP COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a skin cosmetic, containing a high-molecular weight silicone and a low-boiling oil for dissolving the silicone and having good water, perspiration, oil resistance as well as makeup durability, excellent extensibility, stability and refreshing feeling of use.

CONSTITUTION: A skin cosmetic containing 1W30wt.% compound expressed by the formula (R1 is methyl or partially phenyl; R2 is methyl or OH; n is 3,000W20,000) and 10W80wt.% low-boiling oil in an amount required for dissolving the above-mentioned compound. Low-boiling silicone, e.g. cyclic silicone or chain silicone, 1W30C isoparaffinic hydrocarbon, etc., are used as the low-boiling oil in an amount of preferably 1W50 times based on the high-molecular weight silicone. The above-mentioned skin cosmetic has excellent preventing effects on makeup disorder. A mixture of a surfactant with water-soluble polyhydric alcohol may be blended with an oily phase for use as an emulsified cosmetic.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特許公報 (B2)

(11)特許番号

第2525193号

(45)発行日 平成8年(1996)8月14日

(24)登録日 平成8年(1996)5月31日

(51)Int.Cl.
A 61 K 7/02
7/00

識別記号

府内整理番号

F I
A 61 K 7/02
7/00

技術表示箇所
Z
J

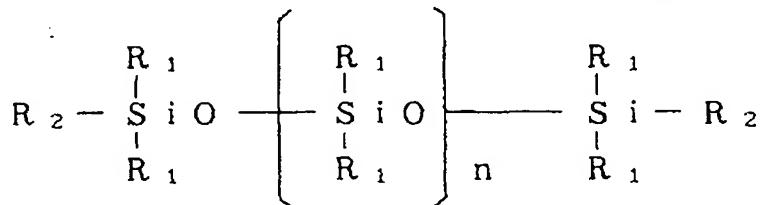
発明の数1(全6頁)

(21)出願番号 特願昭62-164934
(22)出願日 昭和62年(1987)7月1日
(65)公開番号 特開昭63-183516
(43)公開日 昭和63年(1988)7月28日
(31)優先権主張番号 特願昭61-206236
(32)優先日 昭61(1986)9月2日
(33)優先権主張国 日本 (JP)

(73)特許権者 99999999
株式会社資生堂
東京都中央区銀座7丁目5番5号
(72)発明者 難波 富幸
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社
資生堂研究所内
(72)発明者 石渡 正昭
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社
資生堂研究所内
(72)発明者 池田 敏秀
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社
資生堂研究所内
(74)代理人 弁理士 舘野 千恵子
審査官 加河 美香
(56)参考文献 特開 昭60-116621 (JP, A)

(54)【発明の名称】 メーキャップ化粧料

(57)【特許請求の範囲】



(R₁はメチル基または一部がフェニル基を表し、R₂はメチル基または水酸基を表す。また、nは3,000~20,000の整数を表す。)

で表される高分子量シリコーンの一種または二種以上を配合することを特徴とするメーキャップ化粧料。

【請求項2】メーキャップ化粧料が高分子量シリコーンを溶解するのに必要な量の低沸点油を含有するものであ

る特許請求の範囲第1項記載のメーキャップ化粧料。
【請求項3】低沸点油が低沸点シリコーンである特許請求の範囲第2項記載のメーキャップ化粧料。

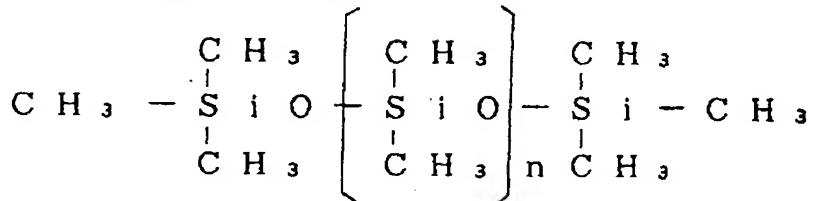
【請求項4】低沸点シリコーンが環状シリコーンである特許請求の範囲第3項記載のメーキャップ化粧料。

【請求項5】環状シリコーンがオクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサンまた

ンを化粧料に配合した例は全くみられない。

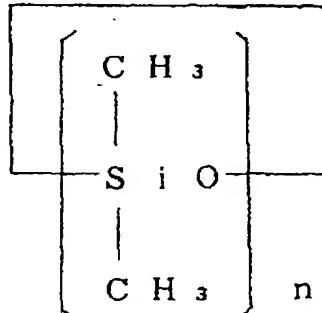
本発明における高分子量シリコーンの配合量は、化粧料全量中の0.5~50重量%、好ましくは1~30重量%である。0.5%以下では十分な効果が得られず50%以上では溶解しにくくなる。

本発明の高分子量シリコーンをメーキャップ化粧料に配合する場合、低沸点の油に溶解して配合することが好ましい。もちろん、メーキャップ化粧料中に別々に配合



(式中、nは0~5の整数を表す。)

低沸点環状シリコーンは次の一般式で表され、具体例をあげれば、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デ



(式中、nは3~7の整数を表す。)

低沸点イソパラフィン系炭化水素としては、常圧における沸点が60~260°Cの範囲にあるイソパラフィン系炭化水素を挙げることができ、例えば、エクソン社製のアイソパーA(登録商標)、同C、同D、同E、同G、同H、同K、同L、同M、シェル社のシェルゾール71(登録商標)、フィリップ社のソルトール100(登録商標)あるいは同130、同220などをあげることができる。

上記低沸点油は任意の一種または二種以上を用いることができ、合計の配合量は高分子量シリコーンに対して1~50倍(重量)好ましく、メーキャップ化粧料全量中の10~80重量%が好ましい。

本発明の剤型は任意であり、乳化系、粉末分散系、油-水-粉末の3層系など、いずれでも構わない。

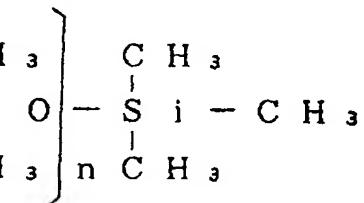
乳化系の場合は、高分子量シリコーンを含む油相をノニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、アニオン界面活性剤あるいはそれらの混合物で乳化して用いるのが一般的であるが、その際に、あらかじめ界面活性剤と水溶性多価アルコールとの混合物を調製し、ついで油相と混合して乳化剤組成物を得る方法が好ましい。

水溶性多価アルコールは、分子内に2個以上の水酸基

して系中で溶解させても構わない。

低沸点油としては、低沸点鎖状シリコーンや低沸点環状シリコーンまたは低沸点イソパラフィン系炭化水素などをあげることができる。

低沸点鎖状シリコーンは次の一般式で表され、具体例をあげれば、ヘキサメチルジシロキサン、オクタメチルトリシロキサン、デカメチルテトラシロキサン、ヘキサデカメチルヘプタシロキサンなどである。



カメチルシクロペンタシロキサン、テトラデカメチルシクロヘキサシロキサンなどである。

を有する多価アルコールであり、具体例を挙げれば、エチレングリコール、プロピレングリコール、トリメチレングリコール、1,2-ブチレングルコール、1,3-ブチレングルコール、1,4-ブチレングルコール、テトラメチレングルコール、2,3-ブチレングルコール、ペンタメチレングルコール、2-ブテン-1,4-ジオール、ヘキシレングリコール、オクチレングリコール等の2価のアルコール、グリセリン、トリメチロールプロパン、1,2,6-ヘキサントリオール等の3価のアルコール、ペンタエリスリトール等の4価のアルコール、キシリトール等の5価のアルコール、ソルビトール、マンニトール等の6価のアルコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、リエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、テトラエチレングリコール、ジグリセリン、ポリエチレングリコール、トリグリセリン、テトラグリセリン、ポリグリセリン等の多価アルコール重合体、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノフェニルエーテル、エチレングリコールモノヘキシルエーテル、エ

チレングリコールモノ 2-メチルヘキシルエーテル、エチレングリコールイソアミルエーテル、エチレングリコールベンジルエーテル、エチレングリコールイソプロピルエーテル、エチレングリコールジメチルエーテル、エチレングリコールジエチルエーテル、エチレングリコールジブチルエーテル等の 2 倍のアルコールアルキルエーテル類、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノブチルエーテル、プロピレングリコールイソプロピルエーテル、ジプロピレングリコールメチルエーテル、ジプロピレングリコールエチルエーテル、ジプロピレングリコールブチルエーテル等の 2 倍アルコールアルキルエーテル類、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノフェニルエーテルアセテート、エチレングリコールジアジベート、エチレングリコールジサクシネット、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノフェニルエーテルアセテート等の 2 倍アルコールエーテルエステル、キシリアルコール、セラカルアルコール、バチカルアルコール等のグリセリンモノアルキルエーテル、ソルビトール、マルチトール、マルトリオース、マンニトール、ショ糖、エリトリトール、グルコース、フルクトース、デンプン分解糖、マルトース、キシリトース、デンプン分解糖還元アルコール等の糖アルコール、グリソリッド、テトラハイドロフルフリルアルコール、POE テトラハイドロフルフリルアルコール、POP ブチルエーテル、POP POE ブチルエーテル、トリポリオキシプロピレングリセリンエーテル、POP グリセリンエーテル、POP グリセリンエーテルリン酸、POP POE ペンタンエリスリトールエーテル等であり、これらのうちから一種または二種以上が任意に選択され用いられる。

乳化化粧料の油相を構成する油としては、本発明に係る高分子量シリコーンの他につぎのような油を挙げることができる。

すなわち、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ

油、ナタネ油、卵黄油、ゴマ油、バージック油、小麦胚芽油、サザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン、トリオクタン酸グリセリン、トリイソパルミチン酸グリセリン等の液体油脂、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、バーム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、バーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等の固体油脂、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POE ラノリンアルコールエーテル、POE ラノリンアルコールアセテート、POE コレスステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE 水素添加ラノリンアルコールエーテル等のロウ類、流動パラフィン、オゾケライド、スクワレン、プリスタン、パラフィン、セレシン、スクワラン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素、脂肪酸油、アルコール類、オクタン酸セチル、ミリステン酸イソプロピルなどのエステル油、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサンなどのシリコーン油、シリコーン樹脂など、化粧料で一般的に用いられる油分である。

上記成分の一般的な配合量は、界面活性剤がメーキャップ化粧料全量中の 0.5~10 重量%、高分子シリコーンを含む油相が 20~80 重量% であり、あらかじめ界面活性剤と水溶性多価アルコールとの混合物を調製して油相と混合して乳化組成物をえる方法の場合は、界面活性剤 1~20 重量%、高分子シリコーンを含む油相が 10~70 重量%、水溶性多価アルコールが毛髪化粧料全量中の 5~30 重量% で、界面活性剤に対して 50~99 重量% 程度にするのが好ましい。

なお、乳化化粧料の乳化形式としては油中水型または水中油型のいずれでもとりえるが、本発明の効果である撥水性を失わないように調製することが望ましい。

本発明のメーキャップ化粧料には上記の必須構成成分に加えて、目的に応じて本発明の効果を損なわない量的、質的範囲で、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、消炎剤、ビタミン、ホルモンなどの薬剤、香料などの通常化粧品に配合される他の成分を配合することが可能である。

[実施例]

以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明する。本発明は、これによって限定されるものではない。配合量は全て重量% である。

実施例 1 油性ファンデーション

(1) カオリン

25.0%

(2) 二酸化チタン	15.0
(3) 赤酸化鉄	3.0
(4) マイクロクリタリンワックス	4.0
(5) 流動パラフィン	3.0
(6) ソルビタンセスキオレート	1.0
(7) デカメチルシクロペンタシロキサン	39.0
(8) ジメチルポリシロキサン (R ₁ およびR ₂ はメチル基 n=7,000)	8.0
(9) ミリスチン酸イソプロピル	2.0
(10) 香料	適量

(4) から(9)を70~80°Cで攪拌溶解した後、(1)~(3)を加えて分散する。脱気後(10)を加えて所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

比較例1 油性ファンデーション

(1) カオリン	25.0
(2) 二酸化チタン	15.0
(3) 赤酸化鉄	3.0
(4) マイクロクリスタリンワックス	4.0
(5) 流動パラフィン	3.0
(6) ソルビタンセスキオレート	1.0
(7) デカメチルシクロペンタシロキサン	47.0
(8) ミリスチン酸イソプロピル	2.0
(9) 香料	適量

(4)~(8)を70~80°Cで攪拌溶解した後、(1)~(3)を加えて分散する。脱気後(9)を加えて所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1、比較例1について以下の評価を行った。

水またはスクワレンをしみ込ませた濾紙を用意し、これに実施例1または比較例1を塗布して乾燥させたナイロン板を圧着して10回の上下動を行う。上下動終了後のナイロン板から濾紙上への試料の転写量を色の濃さで肉眼判定する。

[評点]

- 1 全く転写しない。
- 2 わずかに転写する。
- 3 転写が著しい。

結果は合計5回の実験測定の平均値で表1に示す。

表 1

	水	スクワレン
実施例1	1.0	1.0
比較例1	1.8	2.6

従来のもちのよい油性ファンデーションである比較例1に比べても、実施例1は水やスクワレンに落ちにくい、すなわち、耐水性及び耐油性良好な化粧もちに優れたメイキャップ化粧料であることがわかる。

実施例2 液状口紅

(1) ジメチルシロキサン0.65cs 20.0% 50

(2) ジメチルシロキサン2.0cs	44.0
(3) メチルフェニルポリシロキサン (R ₁ の10%がフェニル基で残りは メチル基、R ₂ はメチル基、 n=15,000)	15.0
(4) (CH ₃) ₃ SiO _{1/2} /SiO ₂ /(CH ₃) ₃ SiO =2.4/1.6/1.0 (モル比) よりなる 有機シリコーン樹脂	5.0
(5) グリセリルトリイソステアレート	6.0
10 (6) 赤色226号	10.0
(7) 香料	適量
(1)~(4)を70~80°Cで攪拌溶解し、別に(5)と (6)をローラー処理したものを加えて分散する。脱気後 (7)を加えて液状口紅を得た。	
実施例2の液状口紅は耐水性、耐油性、耐汗性に優 れ、またコップなどへの付着による化粧くずれも少ない ものであった。使用感もさっぱりしていた。	
実施例3 マスカラ	
(1) ジメチルシロキサン1.5cs	4.5%
20 (2) 振発性イソパラフィン	50.0
(3) 末端水酸基含有ジメチルポリシロキサン (R ₁ はメチル基、R ₂ は水酸基 n=4,000)	30.0
(4) 黒酸化鉄	15.0
(5) POE(20)ソルビタンモノラウレート	0.5
(6) 香料	適量
(1)~(3)を70~80°Cで攪拌溶解後、(4)および (5)を添加して分散する。脱気後(6)を加えてマス カラを得た。	
30 実施例3のマスカラは涙などによる化粧くずれも少な く、まぶたへの付着もないマスカラであった。	
実施例4 化粧下地	
(1) カオリン	10.0%
(2) 二酸化チタン	5.0
(3) 赤酸化鉄	0.3
(4) 黄酸化鉄	0.2
(5) メチルフェニルポリシロキサン (n=100)	20.0
(6) スクワラン	10.0
40 (7) 固形パラフィン	5.0
(8) マイクロクリスタリンワックス	4.0
(9) ソルビタンセスキオレート	1.0
(10) 末端水酸基含有ジメチルポリシロキサン (R ₁ はメチル基、R ₂ は水酸基 n=7,000)	2.0
(11) ミリスチン酸イソプロピル	24.5
(12) 香料	適量
(1)~(4)を混合粉碎する。別に(5)~(11)を70~80°Cで混合溶解する。両者を攪拌混合し、脱気後 (12)を加えて化粧下地を得た。	

実施例4の化粧下地は、このものの上に重ねるメイキャップ化粧料ののりをよくし、化粧くずれも抑える効果を有していた。

実施例5 ハイライター

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	95.0%
(2) 末端水酸基含有メチルフェニル	
ポリシロキサン	
(R ₁ の5%がフェニル基で残りはメチル基、	
R ₂ は水酸基、n=20,000)	4.5
(3) チタン・マイカ系パール顔料	0.5

(4) 香料

適量

(1) および(2)を加熱溶解し、(3)(4)を加え分散してハイライターを得た。

実施例5は化粧くずれが少なく、さっぱりした使用感のハイライターであった。

[発明の効果]

本発明のメイキャップ化粧料は耐水性、耐汗性および耐油性良好で化粧もちに優れ化粧くずれが少ないメイキャップ化粧料である。さらに、使用感触も、のびがよくさっぱりしていてすぐれている。